



# まいいた

令和8年度

6月号

令和8年5月25日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

## 一本の「おおきな木」の幸せ

校長 鳥飼信幸

先日、6年生とともに修学旅行へ行ってきました。子どもたちは、それぞれに思い出を胸に刻むと同時に、自分自身の成長についてもしっかりとふりかえていました。ご家庭での修学旅行の話も、大切な「ふりかえり」の一つです。子どもたちの一言一言には、成長した自分への実感と誇り込められていると感じます。

朝会では、1か月間の行事や学習活動を「ふりかえる」時間を設けています。それは、本校の教育目標である「自律」「対話」「創造」を育むためです。子どもたちだけでなく、教職員も同じように「ふりかえり」を行います。自らの頑張りや課題をみつめ直すことは、次の成長につながるだけでなく、自分自身を冷静にみつめる力を育てます。

私たち教職員も、月末には教育目標や教育方針について「ふりかえる」時間を設けています。私自身も、メタ認知をはたらかせながら、「自分はどうかであったか」と問い続けています。

そのような中で、私の原点を思い起こさせてくれる一冊があります。世界中で読み継がれている絵本『おおきな木』です。この物語には、一人の少年と一本のリンゴの木の関係が描かれています。少年は木とともに遊び、木はそれを幸せと感じます。やがて少年が成長し、家や船を求めるようになると、木は枝や幹を差し出します。すべてを与えた後、少年は去り、木には切り株だけが残ります。そして年月を経て、老人となった少年が戻り、「休める場所があればいい」と言います。そのとき木は自分の切り株を差し出し、それで幸せだったと物語は終わります。

この本は、私が校長になった際に、目標としている校長先生からいただいたものです。迷ったとき、原点に立ち返りなさい」というメッセージであると思っています。また、本の見返しにサインを書きいただきました。そのサインを見て、「自分の心は揺れ動くからこそ、規範となる師から学び、“〇〇先生ならどうされるか”と考え、自分を向上させていくことができると思っていますからです。

私は、この物語を教師としての立場で読みました。「子どもたちと向き合い、悩みに耳を傾け、ただ寄り添いながら共に乗り越えていく存在でありたい。誰一人取り残さず、戻れる場所があり、待っている人がいる学校にしたい。そんな「おおきな木」のような温かさをもつ学校づくりを目指したい」とあらためて感じています。実は2人の息子の親としての立場でも読みました。今回は教師としての視点を中心に。

この『おおきな木』は、読む人の立場によってさまざまな解釈ができます。親の視点では、子どもの成長とともに変化していく役割への喜びと寂しさ。環境の視点では、自然の恵みへの感謝と、人間の在り方への問い。そして関係性の視点では、「与えること」と「受け取ること」のバランスや、本当の思いやりとは何かを考えさせられます。

訳者の村上春樹さんは、「あなたは『おおきな木』が幸せだったと思いますか？ ……あなたはこの少年に似ているかもしれません」と述べています。だからこそ、この作品は大人にこそ読んでほしい一冊です。

子どもたちは、大人の姿をよく見えています。家庭、学校、そして社会にいる大人から大きな影響を受けながら成長していきます。私たち大人が、「自律」「対話」「創造」を大切にしながら、他者を思いやり、誠実に生き、善悪を見極め、社会の一員として責任を果たす姿を示すこと。それこそが、子どもたちの豊かな成長につながるのだと確信しています。今自分ができるその姿を、こどもみらい応援隊の穂坂さんを見せています。私自身も、そのような大人であり続けられるよう努めてまいります。

最後に、今後も大人同士が「Our Team」としてつながり、「子どもが育つ学校」をともに創っていければと願っています。本校の教育活動へのご理解ご協力、応援を、どうぞよろしく願っています。

今回もラグビーネタはありませんが、今年もマスタース花園(40歳以上のラグビー全国大会)への出場を母校は申請する予定です。一昨年は先輩の一声(一言)で出場しましたが、今年も無理かな…。

【参考文献】 シェル・シルヴァスタイン 1964(著) 村上春樹 2010(訳) 「おおきな木」 あすなろ書房

## 【お知らせ】

登校時には、日頃より学援隊の皆様に子どもたちの見守りをさせていただいており、心より感謝申し上げます。子どもたちの安全・安心のためにお力添えをいただき、本当にありがとうございます。

さて、PTAが「こどもみらい応援隊」となり、登校時の保護者による見守り活動は任意となりました。そのような中でも、引き続き子どもたちのために見守りをしてくださっている保護者の皆様に、あらためて感謝いたします。ありがとうございます。

一方で、本校周辺には登校時に車や自転車の通行が多く、注意が必要な箇所も見られます。そこで、朝の出勤前やお出かけの前など、できる範囲で結構ですので、子どもたちの見守り、声かけ、あいさつにご協力いただけますとうれしく思います。

ご無理のない範囲で、今できることからご協力いただけましたら幸いです。どうぞよろしく願っています。

すぐにでも事故につながるような危険個所がありましたら、学校へご連絡ください。